

個の成長を促す教育的支援の在り方 1

－ 対人関係を円滑に行うための支援の在り方 －

佐賀市立鍋島小学校 教諭 副島 輝史

基山町立基山小学校 教諭 高木 千明

鹿島市立明倫小学校 教諭 田島 敦子

嬉野市立嬉野中学校 教諭 池田 朋子

1 グループ研究の趣旨

近年，様々な問題行動や不登校等に対応するための生徒指導・教育相談の充実が求められている。また，発達障害の児童生徒に対する特別支援教育が推進されている。

個別の支援が必要な児童生徒への対応がなされている中で，他の児童生徒へと目を向けると，周囲と人間関係をうまく築けず，自信をなくしている児童生徒が見られる。そのような児童生徒は，集団の中で自分の居場所を見付けられず，不安な気持ちを抱いたり，周囲の人と交わる喜びを感じ得ないで，孤独感をもったまま生活したりしているのではないかと考える。また，ささいなことで対人関係にトラブルを生じたり，その問題解決がうまく図れなかったりしているところも見受けられる。その原因として，他者との共生や他人を思いやる心，自主・自律の心などが薄れ，対人関係を円滑に結ぶ力が育っていないことが根底にあると思われる。児童生徒の人格が人間関係の中で形成され，社会化されていくことを考えれば，大変憂慮すべきことである。

本グループでは，個の成長を促すには「一人一人の児童生徒が自己肯定感をもったり，存在感をもったりし，周囲との対人関係を広げ深めていくこと」が必要であるととらえ，教師と児童生徒，児童生徒同士の対人関係に目を向けた。教師がどのような支援を行えば対人関係が円滑になるのか，その課題を解決することで，一人一人が自己肯定感をもったり，集団の中で居場所を見付けることができたり，トラブルをうまく解決できたりするのではないかと考えた。

そこで，本グループでは，「対人関係を円滑に行うための支援の在り方」というサブテーマを設定し，「個の成長を促す教育的支援の在り方」を研究していくこととした。

2 研究の内容と方法

(1) 内容

個の成長を促すには，対人関係を円滑に行い，より良い人間関係を築くことが必要である。そのため，児童生徒一人一人の実態をとらえ，適切な指導方法を選択し，個別及びすべての児童生徒への支援を行う必要があると考えた。

そこで，支援が必要な児童生徒，および，その周囲の児童生徒に対して，教育相談・生徒指導・特別支援教育のそれぞれの面から，予防・開発的な教育相談を念頭に置き，どうすれば対人関係を円滑に行うための支援ができるのかを探った。

(2) 方法

個別の支援を行っていくときに，まず，これまでの教師と児童生徒とのかかわり方を見つめ直す必要があるため，教育相談の理論や技法を学び，教師としての視野を広げたり，教育相談的力量を向上したりするための研修を行った。その上で，個別の支援が必要な児童生徒に対して，実態把握と児童生徒理解を十分に行い，それに適した手法を用いて，より良いかかわり方を探った。このような個別へのかかわり方を基に，すべての児童生徒に対し，対人関係を円滑に行うことができるような支援の在り方へとつなげていく事例研究を行った。